みんなの健康ラジオ

『先天性風しん症候群』

（2019年2月28日放送）

横浜市小児科医会

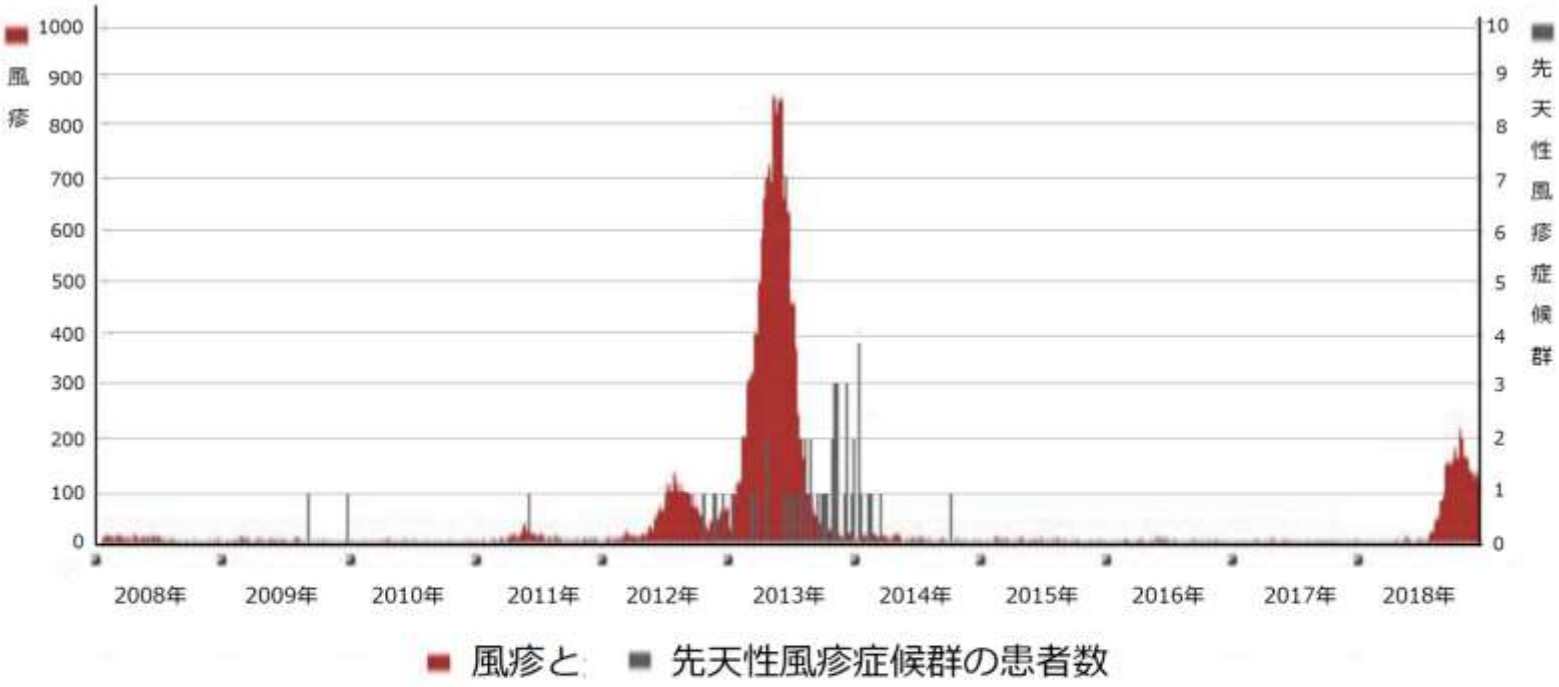
竹田こどもクリニック

竹田 弘

先天性風しん症候群とは？

- **風しん**は、発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状がでる流行性の病気です。
罹患しても症状が出ない人もいますし、風しんと診断されても検査をすると風しんではなかった人もいます。
- 妊婦、特に妊娠初期の妊婦が風しんに感染すると、心臓病や難聴、白内障、体重増加不良、精神発達遅延などの障害のある子どもが出生することがあり、**先天性風しん症候群**といいます。
- 昨年から、**予防接種歴のない、あるいは接種歴不明の20歳から60歳までの成人を中心に風しんの流行**がみられます。妊婦も罹患することがあり、先天性風しん症候群の発生が危惧されています。

風しんと
先天性風しん症候群の報告数

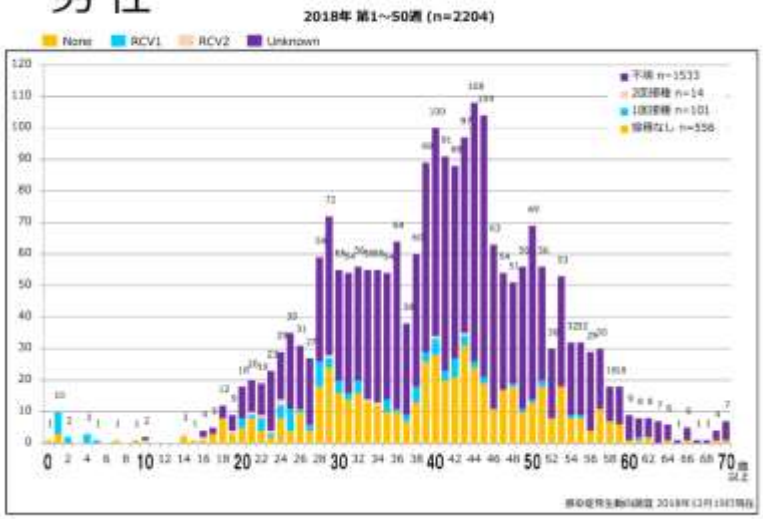


出典：国立感染症研究所ホームページ（https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/181219/rubella181219.pdf）より加工して作成

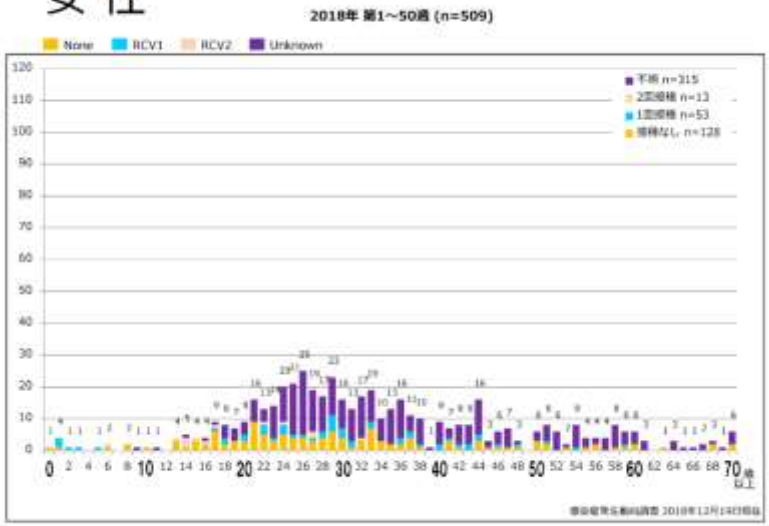
昨年に引き続き　今年も風しんの流行が懸念されます

年齢別 風しん報告数

男 性



女 性

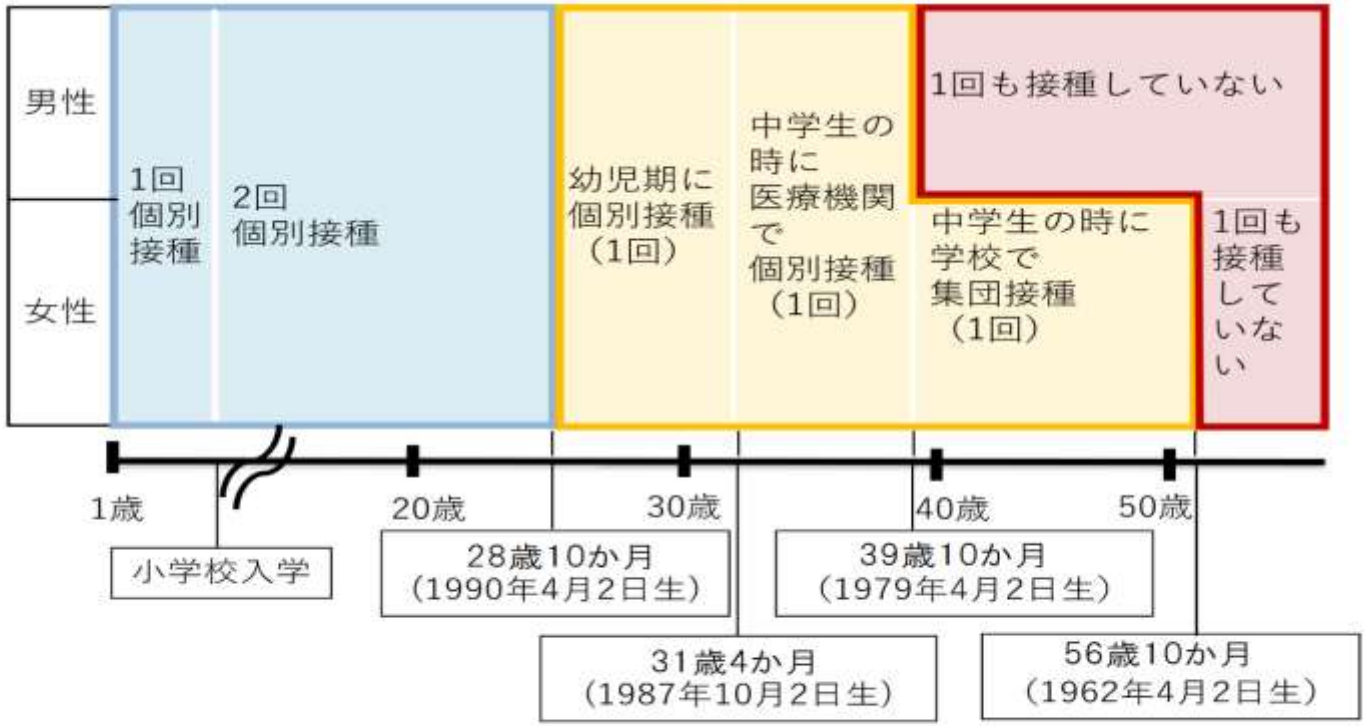


出典：国立感染症研究所ホームページ（https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/181219/rubella181219.pdf）より加工して作成

男性は、ワクチン"接種歴のない"あるいは"接種歴不明"の20歳から60歳までの方が風しんに罹患しています。

女性は、妊娠可能年齢層にも風しんの罹患があります。

あなたは風しんワクチンを接種してありますか？



2019年2月1日時点

出典：国立感染症研究所ホームページ（https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000360787.pdf）より加工して作成

接種の記録がない方は、抗体検査を受けましょう。
可能であれば、検査せずにワクチンを接種してもかまいません。

先天性風しん症候群：その発生を抑えるには？

- 小児は、麻しん風しん混合ワクチンの**定期接種年齢には必ず接種**を受けましょう。
- 成人は、風しんワクチンあるいは麻しん風しん混合ワクチンを**２回接種した記録のない方は、抗体検査を受けるかワクチン接種を**受けましょう。
- 風しん抗体ＨＩ法が8倍以下の場合には、ワクチン接種をおすすめします。8倍あるいは16倍の場合はかかりつけ医とご相談ください。
- **妊婦は、32倍以上の抗体**を持っていることが望まれます。妊娠可能な女性は、１～２割前後の方が32倍以上の抗体をお持ちではありません。**妊娠を希望される女性は風しんの抗体検査を**受けると良いでしょう。
- **妊婦の同居家族など**は、風しんを発症しないようにとくに予防が必要です。